

日本の輸出は 8 月に復調も、増勢加速には至らず

輸出は 7 月に落ち込んだ後、8 月に復調も、7～9 月期では 4～6 月期並みか小幅減速にとどまる見込み。円安による下支えはあるものの、新興国の景気減速が、引き続き輸出の重石。一方、輸入は 7～9 月期に増勢が強まるため、貿易収支は名目、実質ともに赤字が拡大すると予想。

輸出は 7 月の落ち込みから 8 月に回復

財務省が公表した 2013 年 8 月の貿易統計によると、輸出額（名目輸出）は前年比 14.7%（7 月 12.2%）に伸びが高まった。これは 2010 年 8 月以来の高い伸びである。財務省試算の季節調整値でみても、8 月は前月比 2.2%と増加し、7 月に示した▲1.5%の落ち込みから回復した。なお、8 月は輸出物価指数が前月比▲1.2%と低下しており、物価変動を控除した実質ベースは名目ベースより伸びが高まる。当社試算の実質ベース季節調整値では、8 月に輸出は前月比 5.1%（7 月▲4.0%）と急増した。

7～9 月期の輸出は増勢加速に至らず

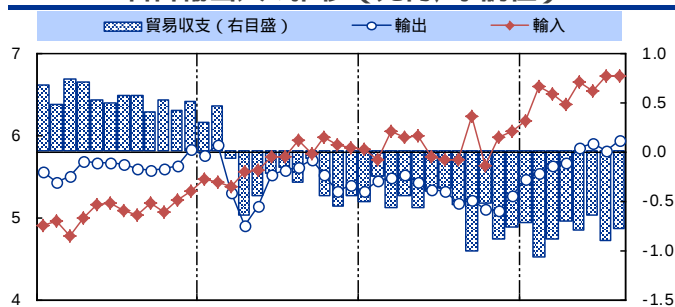
但し、7～8 月平均を見ると、名目ベースが 4～6 月期を 1.2%上回り（4～6 月期前期比 4.9%）、実質ベースは 0.5%上回るにとどまる（4～6 月期前期比 1.8%）。9 月に一定の増加を想定しても、7～9 月期の輸出の伸びが 4～6 月期を大きく上回るとは考えにくい。円安による輸出数量（実質輸出）押し上げ効果が作用し、日本の輸出は増勢を維持しているものの、更なる増勢加速には至っていない。

円安傾向が維持されているにも関わらず、日本の輸出が加速していない主因は、新興国向け輸出の回復の遅れである。7～8 月平均の輸出を仕向け地別に見ると、ASEAN 向けが 4～6 月期を 7.1%も下回るなど特に落ち込みが目立つ。一部の国々の景気減速に加え、日本と ASEAN の間の貿易構造変化などが輸出低迷へ影響している可能性もあり、要因は特定し難いが、他の新興国向けに比べ、回復が明らかに遅れている。同じアジア向けでも、景気底入れの動きが見られる中国向けは 7～8 月平均が 4～6 月期を 2.9%上回った。なお、米国向けは 4～6 月期対比で横ばい、EU 向けは大幅増加だった。

輸出は増勢維持も、新興国の景気動向に留意

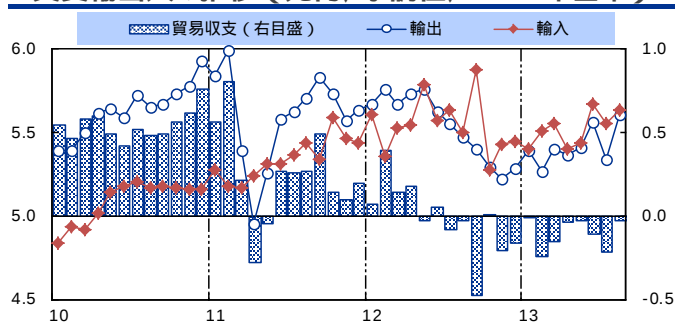
先行きについて、OECD 先行指数や各国の製造業 PMI など、新興国を含め世界的に景気循環が再び上向きへ向かう動きが足元で散見されているため、日本の輸出は増勢を維持すると考えられる。また、円安による輸出下支えの動きも変わらない。但し、ASEAN など新興国の景気動向が、日本の輸出を圧迫する可能性には、引き続き留意が必要であろう。

名目輸出入の推移（兆円、季調値）



（出所）財務省

実質輸出入の推移（兆円、季調値、2010 年基準）



（出所）財務省、日本銀行

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、伊藤忠経済研究所が信頼できると判断した情報に基づき作成しておりますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。記載内容は、伊藤忠商事ないしはその関連会社の投資方針と整合的であるとは限りません。

輸入は 7～9 月期に増勢加速

8月の輸入額(名目輸入)は前年比16.0%(7月19.6%)へ減速した。財務省試算の季節調整値でも前月比0.1%(7月2.7%)と横ばいにとどまる。但し、8月は輸入物価が前月比▲1.0%(7月1.3%)と低下し、名目ベースを押し下げており、当社試算の実質輸入は前月比1.5%(7月▲2.0%)と増加した。実質輸入の7～8月平均は4～6月期を1.6%上回っており(4～6月期前期比0.3%)。輸出とは逆に7～9月期に伸びが加速している。8月について実質輸入の内訳を見ると、鉱物性燃料や電気機器、繊維製品が伸びている。

貿易収支は名目、実質ともに7～9月期に赤字拡大の見込み

8月の名目貿易収支(季節調整値)は、輸出増加と輸入横ばいにより、9,603億円(7月1兆279億円)へ赤字幅が縮小した。但し、4～6月期平均の赤字額である7千億円弱を2ヶ月連続で上回っており、7～9月期は4～6月期から赤字幅が拡大する可能性が高い。10～12月期についても、消費税率引き上げ前の駆け込み需要などが作用し輸入の増勢が続く、(7～9月期対比で見れば縮小するが)赤字額は高めの状態が続くと見込まれる。貿易赤字が明確に縮小へ転じるのは、2014年以降になるだろう。

実質GDP成長率への影響を考えるために7～8月平均の実質貿易収支を見ると、4～6月期から赤字幅が倍増している。そのため、7～9月期は純輸出が成長の抑制要因となる可能性がある(4～6月期は前期比0.2%Ptの押し上げ寄与)。

仕向け地別輸出動向

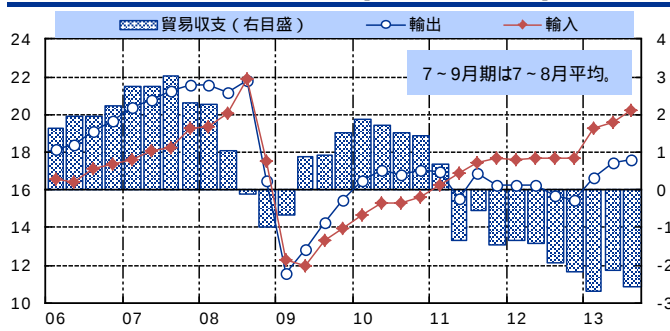
8月の輸出を当社試算の実質輸出により仕向け地別に見ると、アジア向けが前月比6.9%(7月▲6.7%)、米国向けも7.4%(7月▲6.9%)と共に7月の落ち込みを取り戻した。EU向けは1.4%(7月0.9%)と緩やかな増勢にある。

アジア向けは中国向けが復調も ASEAN、NIEs 向けが低調

アジア向けでは、はん用・生産用・業務用機器(8月前月比11.8%)や電気機器(11.2%)を中心に中国向けが前月比10.2%(7月▲5.3%)と大幅に増加した。7～8月平均で見ても4～6月期を2.9%上回っており(4～6月期前期比3.8%)復調が窺われる。中国経済底入れの動きを反映している模様である。

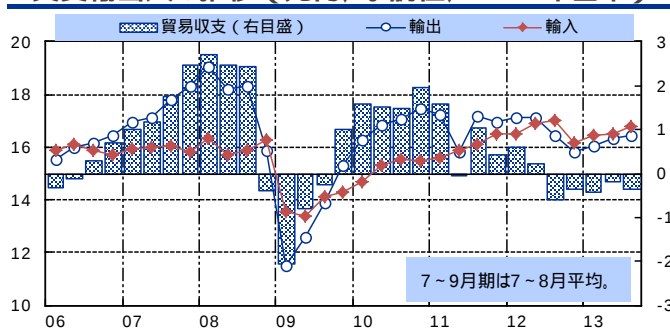
中国向け以外も、8月はNIEs向けが前月比4.7%(7月▲6.5%)、ASEAN向けは6.2%(7月▲10.7%)と反発した。しかし、7～8月平均ではNIEs向けが4

名目輸出入の推移(兆円、季調値)



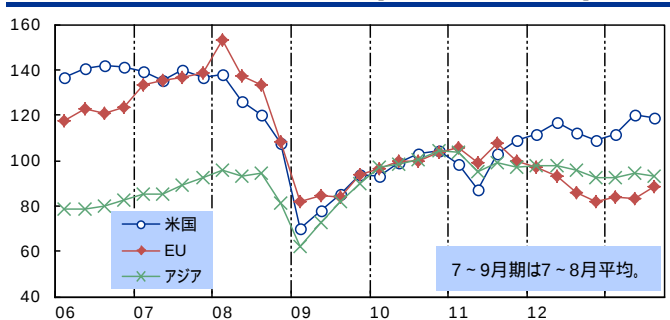
(出所) 財務省

実質輸出入の推移(兆円、季調値、2010年基準)



(出所) 財務省、日本銀行

地域別実質輸出の推移(2010年=100)



(出所) 財務省、日本銀行

～6月期を4.1%下回り（4～6月期前期比3.1%）、ASEAN向けは7.1%下回る（4～6月期前期比1.4%）。均してみれば、両地域向けは低調な状況が続いていると言える。NIEs向けとASEAN向けの低調により、アジア向け全体も7～8月平均は4～6月期を1.2%下回った（4～6月期前期比2.1%）。

米国向けは高水準維持

米国向けは8月に前月比7.4%（7月▲6.9%）と増加した。自動車を含む主力の輸送用機器が6.3%（7月▲5.8%）と伸びたほか、はん用・生産用・業務用機器（8月14.8%）や電気機器（8月9.0%）が好調だった。7～8月平均は4～6月期を0.8%下回るが、4～6月期に前期比7.7%と急増した後であり、アジア向けとは異なり、高水準維持と判断される。

EU向けが底入れ

EU向けは8月に3ヶ月連続で増加した。7～8月平均は4～6月期を5.8%上回っており、四半期で見ても昨年10～12月期をボトムに復調している。7～9月期はユーロ圏経済が再びマイナス成長に戻ると見込まれるなど欧州経済の先行きを楽観はできないが、最悪期は過ぎ去り、また円安効果もあって、日本のEU向け輸出は底入れに至った模様である。